

厚生労働省 三重労働局発表

平成 29 年 12 月 1 日(金)

担 当	厚生労働省三重労働局職業安定部
	職業安定課長 田中 秀治
	職業安定課長補佐 杉本 公紀
	地方労働市場情報官 上村ひろみ
	電話 059-226-2305

報道関係者 各位

## 「雇用情報モニター報告集計結果(平成 29 年度第 3・四半期)」

三重労働局では、県内企業・経営者団体等に雇用情報モニターを委嘱し、企業活動の実績と見通し、雇用動向等についての報告を、年 4 回（四半期毎）提出いただいております。

このたび、平成 29 年度第 3・四半期（29 年 10 月～12 月）実績見込み及び次期（30 年 1 月～3 月）見通しの集計結果を取りまとめましたので公表します。

### 調査結果 主な項目の概要

#### ○ 受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が 27.8%で減少、「減少」が 14.8%で増加。D I（「増加」－「減少」）は 13.0。前期と比べ 3.6 ポイント下降。次期見通しは 18.5 で上昇予想。

#### ○ 企業収益の実績見込みと今後の見通し

「増加」が 21.8%で減少、「減少」が 23.6%で増加。D I（「増加」－「減少」）は▲1.8。前期と比べ 16.4 ポイント下降。次期見通しは 7.3 で上昇予想。

#### ○ 稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が 29.6%で増加、「減少」が 9.3%で減少。D I（「増加」－「減少」）は 20.3。前期と比べ 5.5 ポイント上昇。次期見通しは 18.5 で下降の予想。

#### ○ 設備投資の見込み

「ある」が 41.8%で 1.8 ポイント減少。「ない」は 36.4%で横ばい。  
D I（「ある」－「ない」）は 5.4 で 1.8 ポイント減少。

#### ○ 従業員の過不足判断

「過剰」が横ばい、「やや過剰」が減少、「不足」が減少、「やや不足」が減少。  
D I（「過剰」－「不足」）は▲32.7 となり、3.6 ポイント増加（不足判断が減少）。  
次期見通しは▲30.9 で「不足」判断は減少の予想。

#### ○ 雇用調整の状況

実施事業所は 1 事業所（1.8%）で、前期の 7 事業所（13.2%）から減少。

## ○資料

別添 「平成 29 年度 雇用情報モニター報告集計」

## ○参考

- ・調査対象 地域経済にかかわりの深い企業の中から公共職業安定所長の推薦により労働局長が委嘱した、民間企業及び事業主団体
  - ・調査方法 調査票により、モニターから公共職業安定所長に郵送等により提出
  - ・調査時期 平成 29 年度第 3・四半期実績見込み及び次期（平成 30 年度 1 月～3 月）見通しについて
  - ・モニター内訳 建設業 2、製造業 44、小売業 5、サービス業等 4、事業主団体等 7
  - ・回答状況 民間企業 55 社、事業主団体等 7 団体
- （注）集計結果には、業種別等の偏りがあると思われるのでご了承ください。

# 平成29年度 雇用情報モニター報告集計

平成29年度 第3・四半期  
三重労働局職業安定部職業安定課

29年度第2・四半期(29年7月～9月 以下前期)においては、多くの指標のDI(「増加」-「減少」)はプラスとなりましたが、29年度第3・四半期(29年10月～12月 以下今期)においても、多くの指標のDI(「増加」-「減少」)はプラスとなりました。

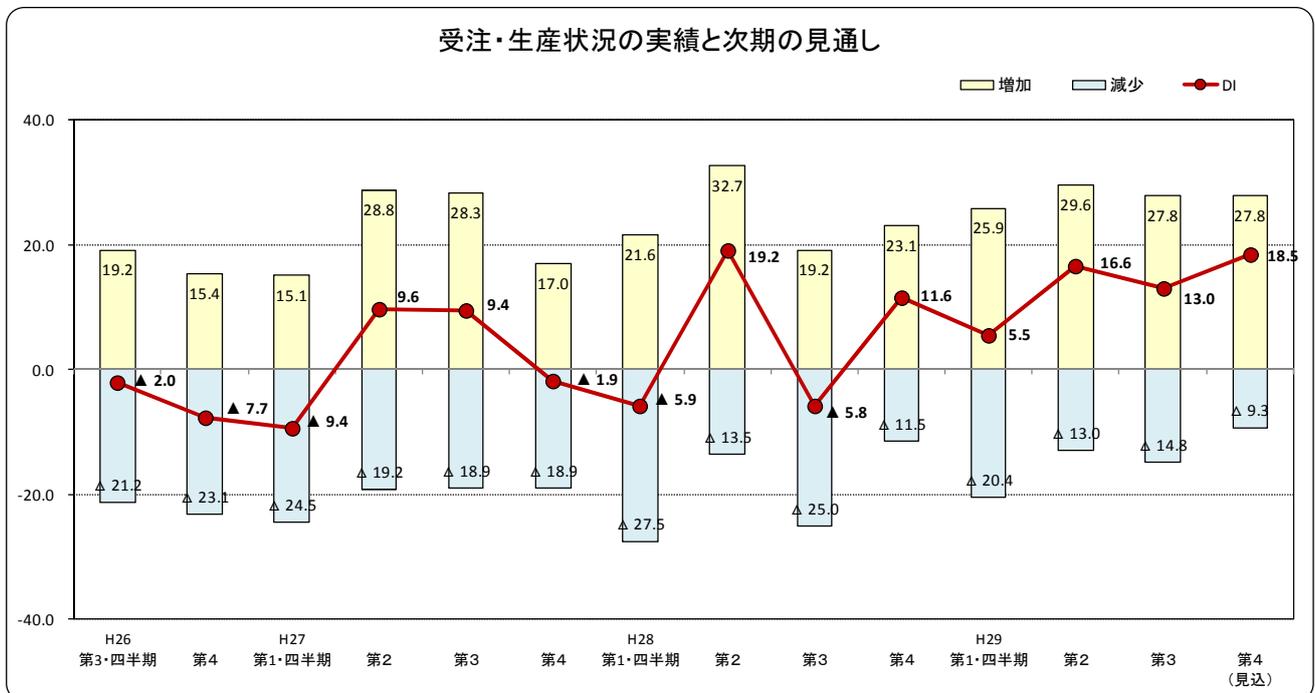
次期の予想においては、多くの指標で上昇の見通しとなっています。

## 1. 受注・生産動向について

### 【受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の受注・生産状況では、「増加」が27.8%、「減少」が14.8%で、DI(「増加」-「減少」)は13.0となり、前期と比べ3.6ポイント下降し、4期連続でプラスとなりました。

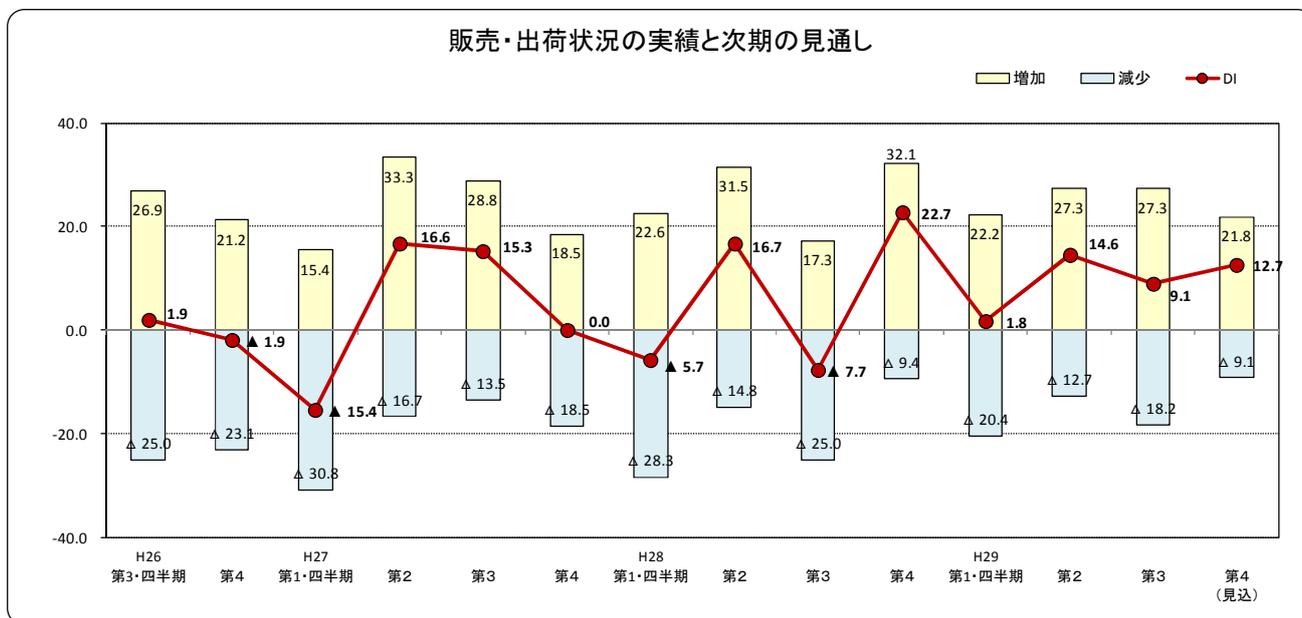
次期の見通しについては、DIは18.5で、上昇する予想となっています。



### 【販売・出荷状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の販売・出荷状況では、「増加」が27.3%、「減少」が18.2%で、D I（「増加」－「減少」）は9.1となり、前期と比べ5.5ポイント下降し、4期連続でプラスとなりました。

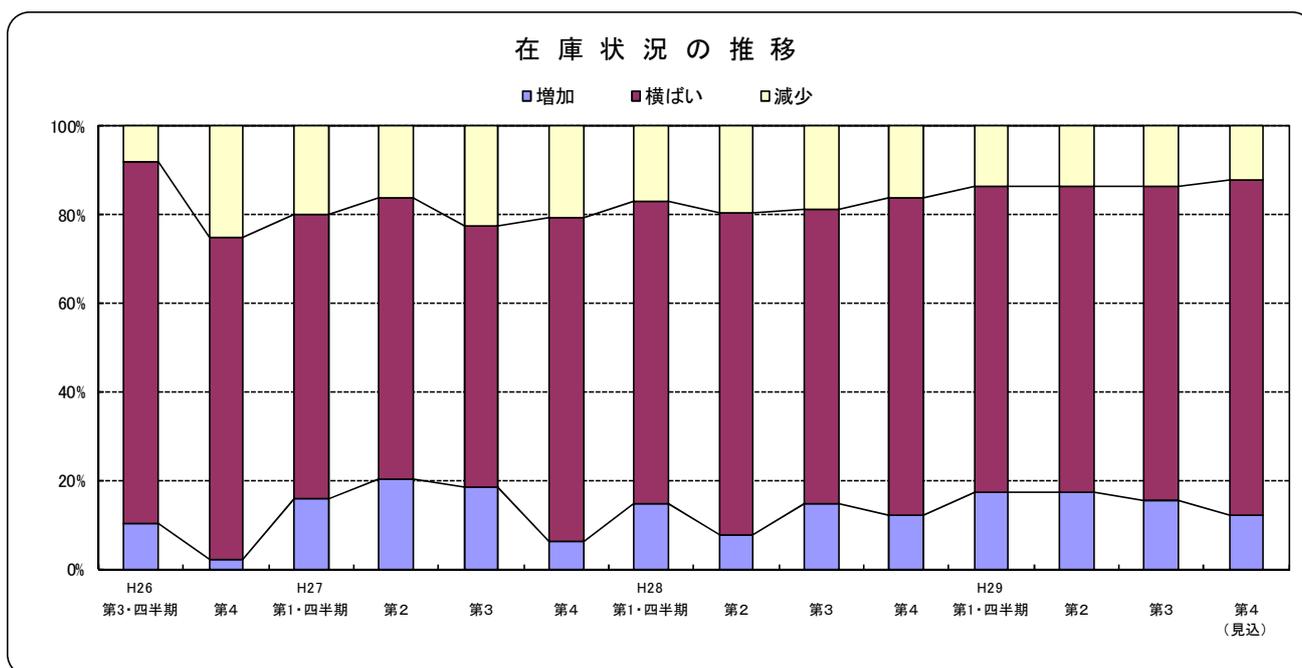
次期の見通しについては、D Iは12.7で、上昇する予想となっています。



### 【在庫状況】

今期の在庫の状況についてみると、「増加」が減少、「減少」が横ばい、31期連続して「横ばい」が最も多くなりました。

次期の見通しについては、「横ばい」が増加し、「増加」が減少する予想となっています。

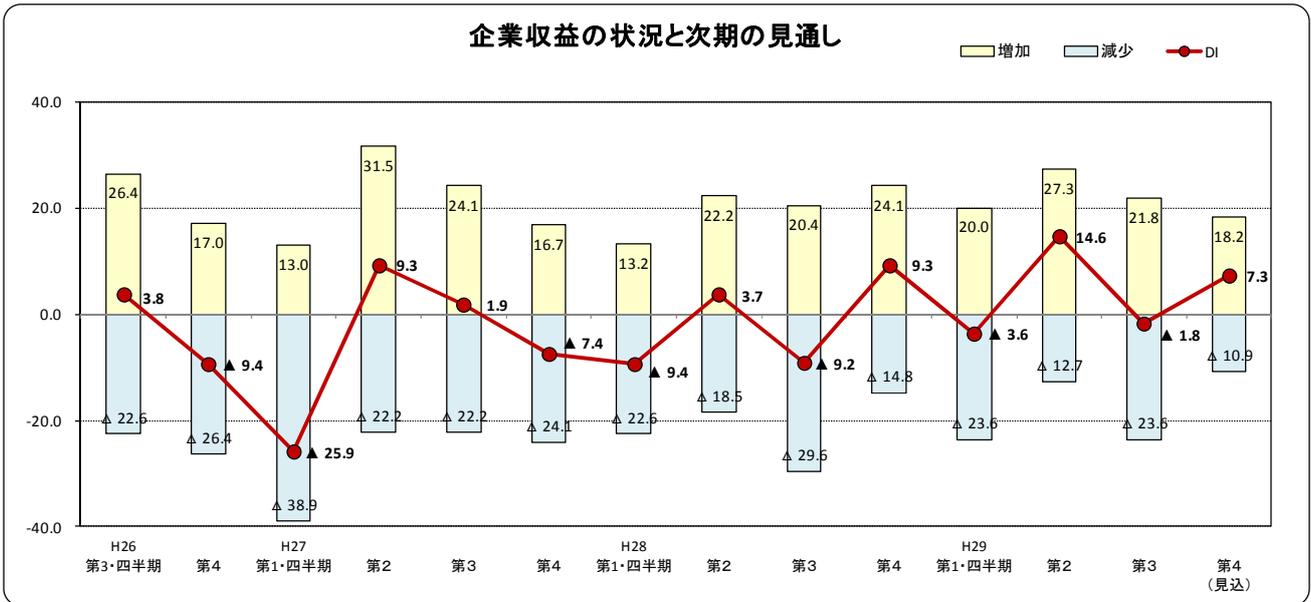


## 2. 企業活動の状況について

### 【企業収益の実績見込みと今後の見通し】

今期の企業収益の状況では、「増加」が21.8%、「減少」が23.6%で、D I（「増加」－「減少」）は▲1.8となり、前期と比べ16.4ポイント下降し、2期ぶりにマイナスとなりました。

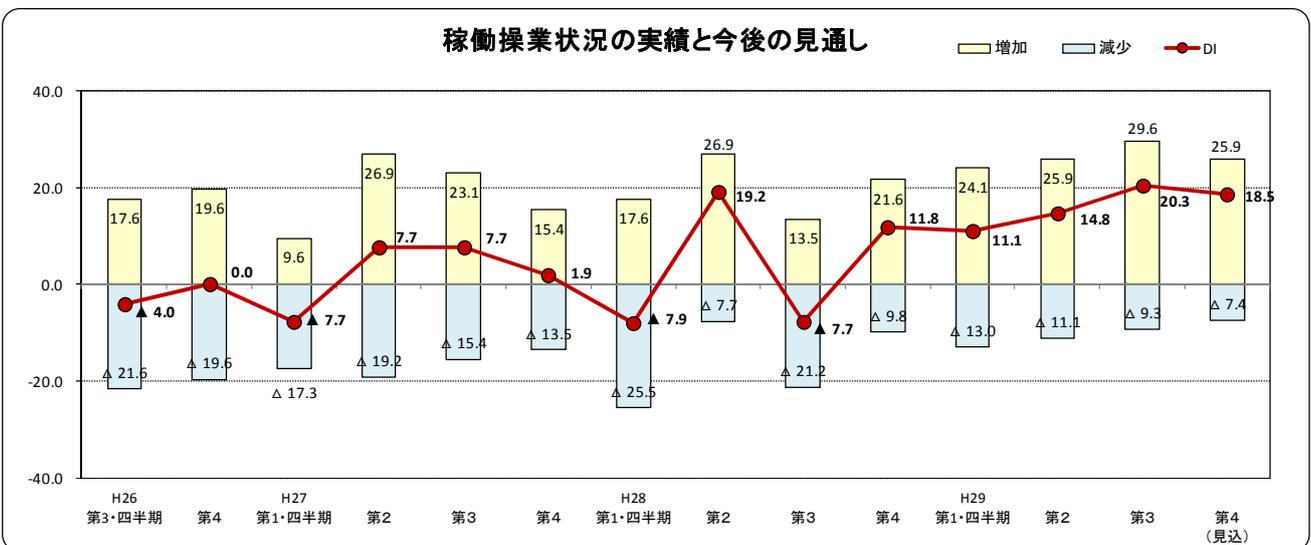
次期の見通しについては、D Iは7.3で、上昇する予想となっています。



### 【稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し】

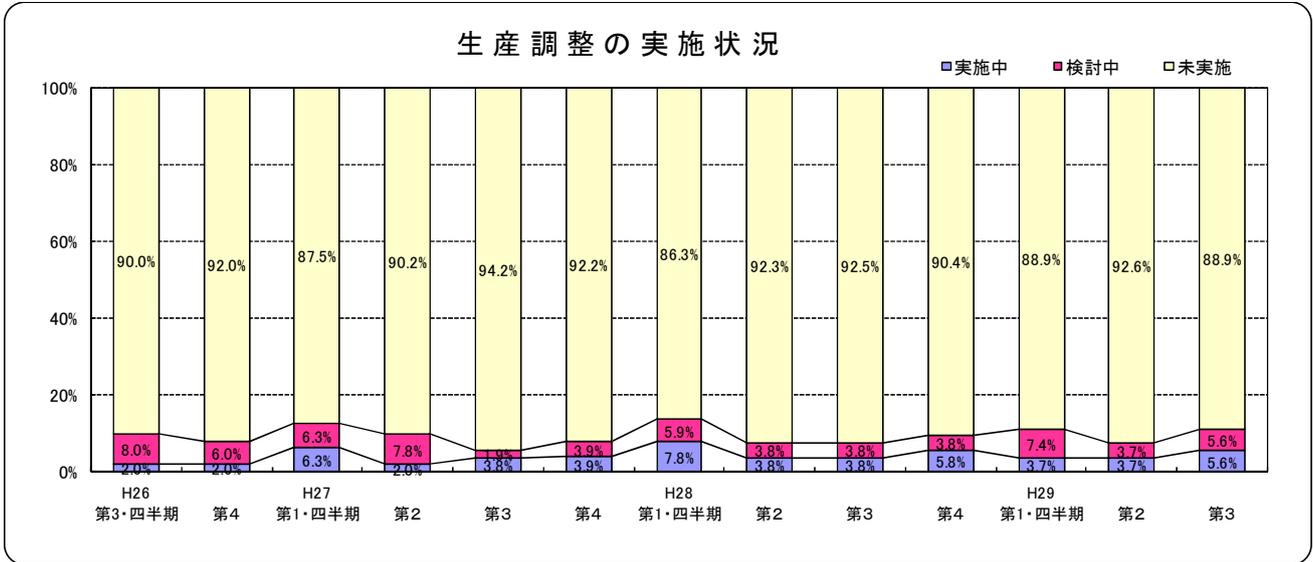
今期の稼働操業状況では、「増加」が29.6%、「減少」が9.3%で、D I（「増加」－「減少」）は20.3となり、前期と比べ5.5ポイント上昇し、4期連続でプラスとなりました。

次期の見通しについては、D Iは18.5で、下降の予想となっています。



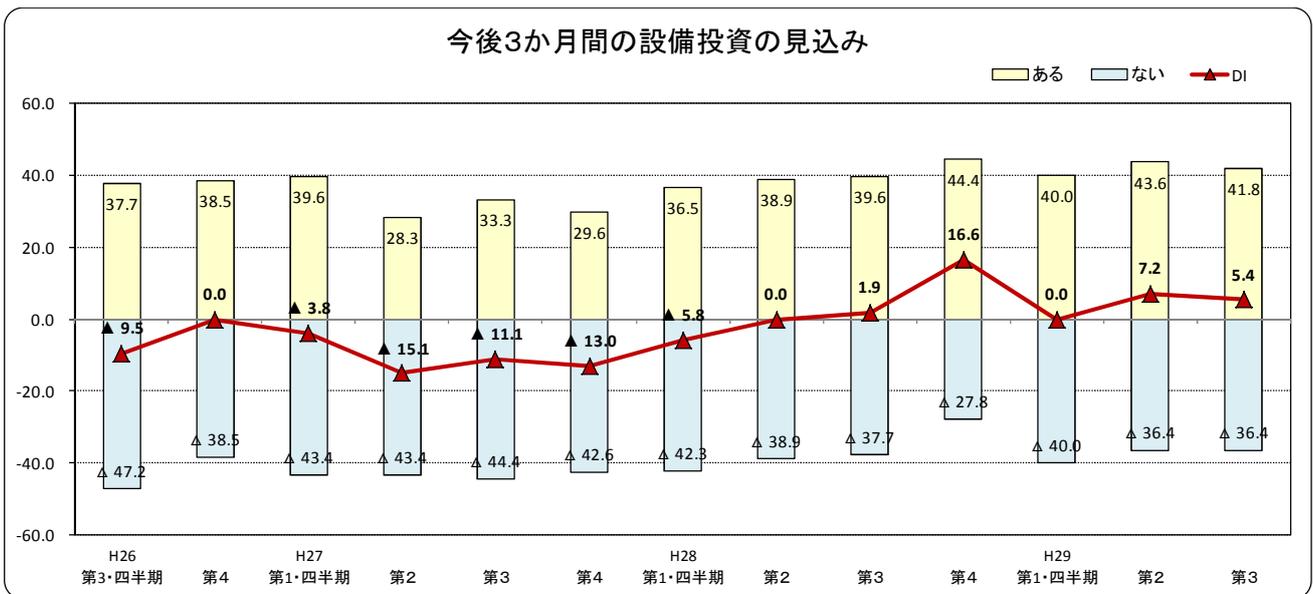
【生産調整の状況】

生産調整を「未実施」とした事業所は、今期は88.9%で前期と比べ3.7ポイント減少、「検討中」は5.6%で1.9ポイント増加、「実施中」は5.6%で1.9ポイント増加となりました。



【設備投資の見込み】

今後3か月間の設備投資の見込みでは、「ある」とする事業所の割合は41.8%で前期と比べ1.8ポイント減少、「ない」とする事業所の割合は36.4%で横ばい、D I（「ある」-「ない」）は5.4となり、前期と比べ1.8ポイント減少しました。

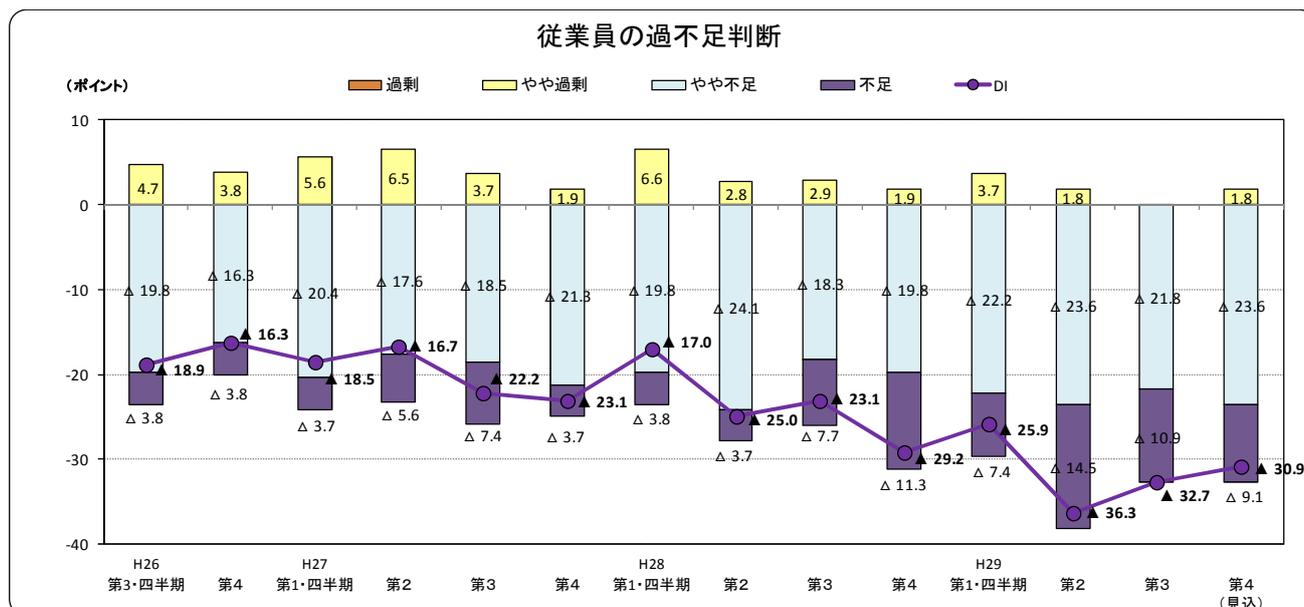


### 3. 雇用動向について

#### 【従業員の過不足判断】

「過剰」は0.0ポイントで横ばい、「やや過剰」とする事業所は0.0ポイントで1.8ポイント減少、「不足」は10.9ポイントで3.6ポイント減少、「やや不足」とする事業所は21.8ポイントで1.8ポイント減少したため、D I（「過剰」－「不足」）は▲32.7となり、前期より3.6ポイント増加（不足判断が減少）し、19期連続で不足判断が過剰判断を上回りました。

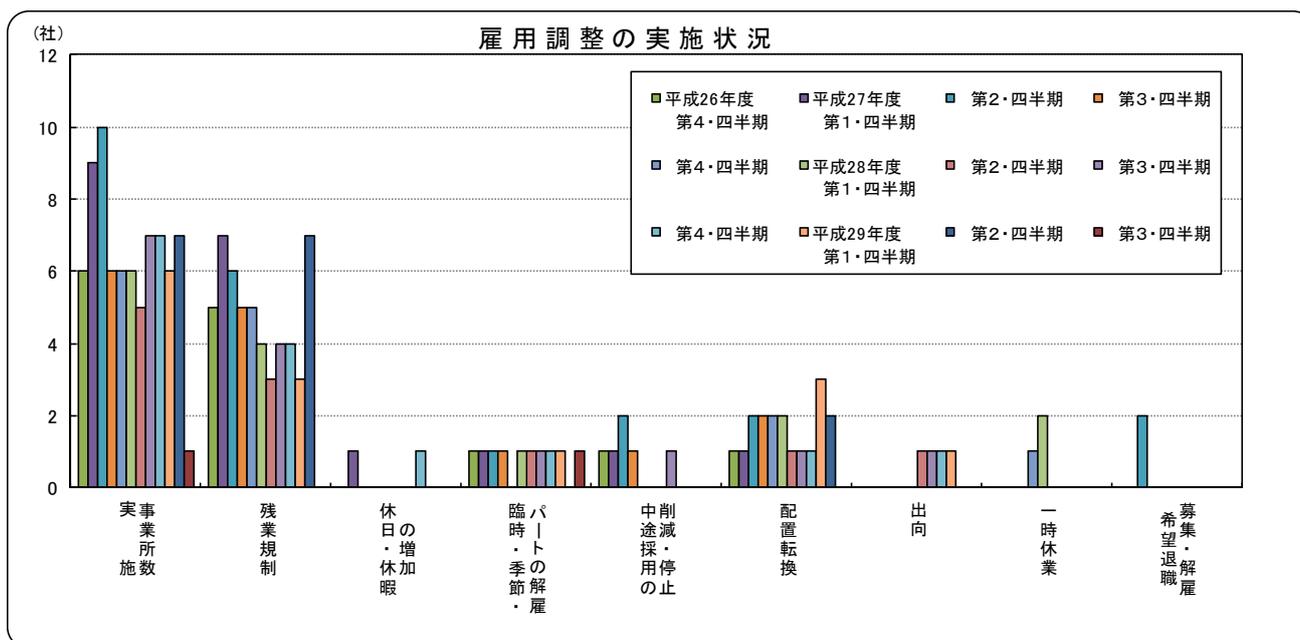
次期の見通しについては、D Iは▲30.9で、「不足」判断は減少の予想となっています。



#### 【雇用調整の状況】

雇用調整を実施している事業所数は、今期は1事業所（1.8%）で、前期の7事業所（13.2%）から減少しました。

	合計	実施なし	予定あり	実施事業所数	残業規制	休日・休暇の増加	臨時・季節・パートの解雇	中途採用の削減・停止	配置転換	出向	一時休業	希望退職募集・解雇
平成26年度 第4・四半期	47	38	3	6	5	0	1	1	1	0	0	0
平成27年度 第1・四半期	51	40	2	9	7	1	1	1	1	0	0	0
第2・四半期	51	40	1	10	6	0	1	2	2	0	0	2
第3・四半期	50	44	0	6	5	0	1	1	2	0	0	0
第4・四半期	52	45	1	6	5	0	0	0	2	0	1	0
平成28年度 第1・四半期	48	40	2	6	4	0	1	0	2	0	2	0
第2・四半期	52	44	3	5	3	0	1	0	1	1	0	0
第3・四半期	51	43	1	7	4	0	1	1	1	1	0	0
第4・四半期	53	45	1	7	4	1	1	0	1	1	0	0
平成29年度 第1・四半期	51	42	3	6	3	0	1	0	3	1	0	0
第2・四半期	53	45	1	7	7	0	0	0	2	0	0	0
第3・四半期	55	52	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0



<主なコメント>

○受注・生産動向については、繁忙期に入り土鍋・耐熱食器類を中心に忙しい。また、燃料（ガス）や原材料、その他の経費が上昇しており収益状況は厳しい。熟練（高齢）技術者が減少しており作業人員は不足している。（製造業）

○工場能力の最高レベルで生産を行っており、受注に関しても前期と同様の高水準で推移し、この状態は時期も継続していくものと思われ、売上げに関しても前期と同水準になるものと予測。今後、積極的に設備投資を行い、工場の生産能力の引き上げを図っていく。人員不足は深刻化している。（製造業）

○電気料金は漸増傾向にあり、派遣単価や賃金などで人件費も高騰しており企業収益を圧迫している。また、正社員やパートの採用活動を行っているが、非常に厳しい状態が続いている。（製造業）

○退職者の補充ができず、人員不足が続いており、今後は労働条件の改定を行っていく。（製造業）

○前期は夏物商品の出荷最盛期であったが、今期は健康関連食品以外の秋冬物のシーズン商品は厳しい。（製造業）

○集合向けの住宅部材の受注が増加している。人員については、正社員求人であっても応募が少ない。（製造業）

○最低賃金の引き上げや受注減少により収益は厳しい。（製造業）

○前期と同様に短期離職者や転職者が増加しており人手不足気味。（製造業）

○近くに競争店がオープンしたため、今後の売上げなどは減少し、人員についても過剰となる。（小売業）

○受注・生産動向については、前期は夏の繁忙期であったため増加したが、今期は減少した。（宿泊業, 飲食サービス業）

○採用が困難な状況は継続しており、退職者もいるため、人材は大きく不足している。（医療, 福祉）